

平成29年度 学校自己評価表

《学校教育目標》		《重点目標（中長期的目標）》	
<p>幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する</p>		<p>【ひとづくり(豊かな情操を育む人間形成)】</p> <p>1 生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。</p> <p>【ものづくり(付加価値の創造)】</p> <p>2 独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業・商業両分野における“ものづくりの拠点校”としての役割を果たす。</p> <p>【学校づくり(充実した学びの場の構築)】</p> <p>3 安心・安全な学校をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の推進等による特色ある教育システムを構築する。</p>	
領域	項目	具体的な教育活動	成果と課題
ひとづくり	1 自他を大切にす心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動の中に自己理解を深める内容を取り入れ、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てる。 メディアリテラシー、人権平和教育等に関する教育活動を推進する。 生徒会行事の企画や運営、ボランティア活動などの社会参加を通して、生徒の自主的な活動を促し他者を思いやる気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> エゴグラム(性格診断)による研修やSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施することで、自己理解やコミュニケーション能力を深めることができた。今後も活動を継続し、定着を図りたい。 全校人権平和学習では「この世界の片隅に」を鑑賞し、戦争や平和について意識する機会となった。 文化祭等の生徒会行事の運営、やまびこマーチ等のボランティア活動に参加することによって、生徒が自ら考え、主体的に活動することができた。
	2 基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、職員全体で、挨拶・服装・頭髮などに対する生徒自身の意識を向上させるとともに、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の充実を図る。 挨拶運動、モラル向上週間、定期的な頭髪服装指導等の実施を通じて、生徒のルール遵守、モラル向上の意識を高める。 生徒会役員、委員会、クラブによる挨拶運動を促し、全生徒が自然に挨拶ができるように方向付けする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が使用する教室等の施設について、使用後の清掃が徐々にではあるが徹底できるようになってきた。 毎月・学期毎に、生徒会役員や部活動でのあいさつ運動・敷地内外のゴミ拾い運動を実施し、校内にどんな時でも挨拶をする雰囲気ができつつある。この活動を継続し、この流れを確かなものとした。 授業中の暴言や校舎及び器物の破損などの事案に対応すべく指導を行ってきたが、今後も継続して学校を公共の場と考えさせていく指導が必要である。
	3 得意分野の伸長(卓越性の伸張)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を広く発信することにより活動意欲を喚起する。 キャリアデザインに繋がる資格・検定・コンテストの情報提供を行うとともに、生徒の実態に合わせた講習会や補習授業を実施する。 終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格取得の意識づけを行う。 授業・クラブ活動・行事等をリンクさせ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブ活動等で活躍する生徒に対して、壮行会を行ったり、懸垂幕を掲示したりすることで全校生徒や地域に周知することができた。また、報道関係に告知し記事としていただくことで情報発信ができた。 高度資格取得者を終業式等の全校生徒が集まる場で表彰し、資格・検定の取得意欲の喚起を図ることができた。この取り組みを継続し、より多くの生徒が資格・検定に取り組むように意欲を持たせたい。 体育の授業では選択制授業を行うことにより、興味・関心の高い領域の学習を深めることができ、高校卒業後の運動の継続のための資質・能力を高めることができた。
ものづくり	1 基礎学力の定着(高校教育の共通性確保)	<ul style="list-style-type: none"> 社会の課題に関心を持たせる学習をとおして、学ぶ意欲の向上を図る。 本校生徒に必要とされる学習内容等について検討する。また、専門科と普通教科の情報交換と現状把握を行う。 公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的な運動ができる資質や能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業や地域の方との協働した学習を通して、地域社会に対する関心を高められた。これらの取組を専門性の伸長及び学力の向上につなげることが課題である。 キャリア学習指導係内で専門教科と普通教科相互の現状把握と課題を見いだすために授業見学を行った。今後も学力の向上や定着を図るための体制づくりについて、さらに議論を深める必要がある。 体育の授業では選択制授業を行うことにより、興味・関心の高い領域の学習を深めることができ、高校卒業後の運動の継続のための資質・能力を高めることができた。
	2 専門力の伸張	<ul style="list-style-type: none"> 学科の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取り組む。 実験実習や課題研究をとおして、文献調査・思考力・分析力など専門分野への探究心を育む。 市町村、地元企業、連合会など地域との連携を深め、課題研究などの教育活動に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターシップおよびキャリア学習の日の事前指導、事後指導を実施し、倫理観を身に付けるよう指導を行った。 各専門科と学年が連携して資格取得のための補習を実施することにより、多くの生徒が様々な資格を取得することができた。 「学びと働きを連携させた信州創生のための新たな人材育成モデル事業」の取り組みが2年目となり、地域の産業界、支援団体、学校との繋がりが深まり、緊密な連携の重要さが確認された。今年度は、キックオフイベント、企業展示説明会、企業講演会等の事業を実施し、生徒や保護者に対して地元の産業について知る機会を与えることができた。また、企業と連携した研究活動等が少しずつ形になってきており、今後は連携を強化し充実を図っていきたい。
	3 総合技術教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 他の総合技術高校との連携を深め情報を共有することにより、総合技術教育の深化、発展を図る。 2年目となった教科(総合技術)では、地元企業や地域の要素を取り入れるなど内容を検討し、学習効果がさらに上がるように取り組む。 全校課題研究発表会の充実を図り、外部への告知方法やPRについて工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は総合技術高校3校の研究会を2度開催した。学科横断的な授業への取り組みなどについて情報を交換し総括する中で、総合技術教育に関する共通の課題について理解を深めることができた。今後も研究会を継続し、総合技術高校の充実を図っていきたい。 今年度開講した3年次選択の学校設定教科「総合技術」は、選択した生徒にはとても好評であった。しかし、学科横断的な教科のため、時間割の編成や授業内容に関して課題も多く出てきている。この教科をより良くするため各校の推進母体(専門科主任会等)で検討を続ける必要がある。 課題研究発表会では、生徒実行委員会が主体的に機能し、案内チラシ・サブタイトル等を生徒が作成した。その効果もあり来客数が倍増した。また、内容的にも充実した発表会が実現できた。
	4 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した指導体制の下、面談等を計画的に行い、生徒・保護者の個々の進路希望を把握し、様々な進路行事を通じて生徒の進路に対する意識を高めるよう努める。 進学希望者、就職希望者に対する補習、面接指導等を計画的に実施するなど、学校全体で生徒の進路実現に向けた取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で計画的に進路講話・ガイダンスを行い、進路情報の提供が行われ、将来の進路に対する意識をさらに高めることに繋がった。また、3年は学力向上に向けて国数英理の補習を、就職対策ではSPIの補習を長期休業や平日に計画的に行った。 生徒の実態把握に努め、個々の希望に沿った進路指導を行うことができた。 専門高校の進路実現のためには、基礎学力とともに、専門力、さらには課題解決力、主体性、協働性等の社会人としての基礎力の向上が必要である。主体的な課題解決の学習を積極的に推進しこれらの力の強化を図っていきたい。
学校づくり	1 安心・安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高め、事案発生の場合に落ち着いて適切に対処できるシステムづくりをする。 職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じたチームとしての支援体制を整える。またSCやSSWを活用し、専門機関と連携する。 定期的にSSTを実施し生徒のコミュニケーション能力や社会的自立心の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルや不審者対応などの整備が進み、職員間での意識や情報の共有が図られるようになってきている。今後も安心安全な学校づくりの観点を重視し、改善充実を図っていきたい。 教育相談係では定例会を開催し、情報共有をはかり、カウンセリング等の支援(SC(スクールカウンセラー)・SSW(スクールソーシャルワーカー)の活用)を行うことができた。 学警連携を進める中で、不審者事案や問題行動発生時に地元警察署と連絡を取り合いながら対応することができた。
	2 環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会及び職員間の連携を強化し、日常の清掃活動やごみの分別収集について立案・実施・指導し、校内の清掃美化の徹底を図る。 I S O委員会と連携し、地域の清掃活動、清掃美化の推進の維持・発展を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と職員が協力して、「PTA学校環境整備作業」で教育環境の充実にも努めることができた。 委員会活動やOIDE清掃を通して、校舎内外の美化意識が高まってきた。
	3 組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営上の諸課題に対して各係・学科・学年間の情報共有と枠を超えた協力の体制づくりを進める。 学校全体のかたちを見据えながら、教科横断的な視野も含みつつ教育課程の討議・編成につとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で情報を共有し、学校や学科、学年の枠にとらわれることなく協力できる体制作りができつつあり、企業展示説明会や講演会が実施できた。今後も改善充実を図っていきたい。 業務内容を事前に関係する係や担当と確認することで役割を明確にし、実施後の反省は広く意見を集約して次年度に引き継げるように体制づくりが行えた。今後も改善充実を図ってきたい。 選択科目を中心として、教育課程の意味・配置について議論し、一部分構造的な編成イメージを改めた。また、教育課程運営面では生徒に選択モデルや編成上のルールを明示した。今後、選択科目の在り方も含め、本校における各科目の教育的意味を確かめ、必要に応じて教育課程全体を調整しつつ編成していく必要がある。 教科「総合技術」によって得ることのできた他学科の知識、技術を生かせる生徒が増えつつある。今後は選択できる科目を増やすなど、改善を図ってきたい。